



こんなところで
学びたかった

子どものための 建築と空間展

こんなところで
遊びたい

2019年1月12日(土)～3月24日(日)

休館日:水曜日 開館時間:午前10時より午後6時まで(ご入館は午後5時30分まで)

主催.....パナソニック 汐留ミュージアム、朝日新聞社 特別協力.....クラレファスニング株式会社
後援.....文部科学省、一般社団法人日本建築学会、公益社団法人日本建築家協会、一般社団法人文教施設協会、港区教育委員会
会場構成.....ヌーブ

会場.....パナソニック 汐留ミュージアム(東京・新橋)

〒105-8301 東京都港区東新橋1-5-1 パナソニック東京汐留ビル4階
お問い合わせ/ハローダイヤル 03-5777-8600

公式HP.....<http://panasonic.co.jp/es/museum/>

入館料.....一般:800円、65歳以上:700円、大学生:600円、中・高校生:400円 小学生以下無料
20名以上の団体は100円割引。

障がい者手帳をご提示の方、および付添者1名まで無料でご入館いただけます。

会期中、一部展示替えます。前期1月12日～2月12日、後期2月14日～3月24日。

2月14日以降に再入場の際は、半券ご提示で100円割引となります。

展示替えの詳細はHPにて1月12日以降発表いたします。

[写真キャプション 右上から時計回りに]
宮代町立笠原小学校 1982年 象設計集団 撮影:北田英治/ゆかり文化幼稚園 1967年 丹下健三 写真提供:ゆかり文化幼稚園/フリードリヒ・フレール考案 第一恩物六球法(部分) 大正～昭和初期 お茶の水女子大学蔵/イサム・ノグチ モエレ沼公園遊具広場 1982-1995年 写真提供:モエレ沼公園 撮影:並木博夫/慶應義塾幼稚舎理科室内観 1937年 谷口吉郎 写真提供:慶應義塾福澤研究センター 撮影:渡辺義雄/自由学園明日館食堂 1921年 フランク・ロイド・ライト十遠藤新 写真提供:自由学園明日館/東松島市立宮野森小学校中庭 2017年 盛総合設計+シーラカンスK&H 撮影:浅川敏/阿久根めぐみこども園 2013年 日比野設計+幼児の城/成田亨《タンクボール》1970年代 青森県立美術館蔵 ©Eternal Universe /東松島市立宮野森小学校 2017年 盛総合設計+シーラカンスK&H 撮影:浅川敏

Shiodome Museum | ROUAULT GALLERY

パナソニック 汐留ミュージアム

私たちが子どものときに過ごした空間は、原風景として長く記憶に留まり、その後の生き方や考え方の形成に与える影響は少なくありません。本展は、子どもたちのためにつくられた学びの場と遊びの場の建築と空間のなかから、日本の近現代の建築・デザイン史において、ひととき先駆的かつ独創的なものを紹介する展覧会です。

日本の近代教育は明治時代に始動し、校舎の建設もそこから始まりました。民衆に愛された明治の擬洋風建築の校舎、大正自由教育の時代の造形豊かな小学校、1970年代の先駆的なオープンスクールなど、さまざまに変遷し子どもたちの活動を受け止めてきました。各建築ごとに、子どもたちが親しみを持てるシンボリックな外観が考案され、心安らくインテリアの充実が図られるなどの工夫も重ねられてきました。一方、幼稚園・保育園や、学校以外の遊び場や読書の空間といった子どもたちの居場所にもユニークな取り組みがあります。それらを、作り手と使い手の両方に着目しながら選んだ写真、図面、模型といった作品資料の展示を通してごらんいただきます。また、教育玩具や絵本の原画なども選りすぐって紹介します。社会のあり方が大きく変化する現代、本展がこれからの子どもたちが育つ環境づくりのインスピレーションとなれば幸いです。

子どものための 建築と空間展

Architectural and
Spatial Works
Designed for Children



関連イベント

展覧会記念対談会

「子どものための建築、子どもの生きる空間、子どもが暮らす学校」

「学校は教育施設ではない。」子どもの目線から学校という場をとらえると、自然の中で子どもの世界を考えると、子どもの住むまちに建築をひらくと、そこで過ごす子どもたちはもちろん、そこを訪れた人々もうれしい気持ちになる。そして時間を経るほどにそのよろこびが大きくなる。そんな学校の可能性を示してきた建築家富田玲子氏と学校建築計画学の第一人者が語り合う、子どものための建築、空間とは。

出演：富田玲子氏(象設計集団)、長澤悟氏(本展監修者、東洋大学名誉教授、教育環境研究所所長)

1月26日(土) 午後2時～午後3時30分(開場午後1時30分)

パナソニック東京汐留ビル5階ホール | 要予約(定員150名)

ワークショップ

からだを動かして建築を楽しむ「けんちく体操」

映し出される建築物のカタチをからだで真似するワークショップ。家族で、お友達同士で、ご参加ください。最後はみんなで大きな建物にチャレンジ!

出演：チームけんちく体操(米山勇氏、江戸東京博物館研究員ほか)

2月23日(土) 午後2時～午後3時30分(開場午後1時30分)

パナソニック東京汐留ビル5階ホール | 要予約(定員30名) ★動きやすい服装でご参加ください。



対談とワークショップは無料ですが、本展の観覧券が必要です。小学生は無料。

申し込み方法：ハローダイヤル 03-5777-8600へお電話にてお申込みください。10月1日(月)より受付開始(受付時間：午前8時～午後10時) 必要事項：①イベント名 ②参加人数(対談は一度にお申し込み頂ける人数は2名まで、ワークショップは一度に5名まで) ③氏名(要全参加希望者) ④住所 ⑤電話番号

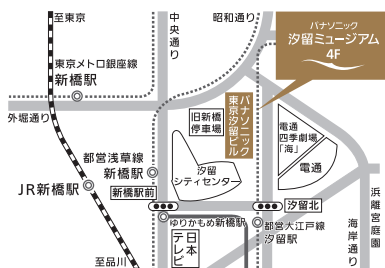
●簡単なアンケートにご協力いただけます。●当日は予約時にお知らせする整理番号を活用してご入場いただけます。●お申し込み時にいただいた個人情報は、本イベントの受講管理の目的でのみ使用し、参加希望者はこの目的での使用に同意したものとします。●定員に達しなかった場合、当日受付をする場合があります。●対談については未就学児はご遠慮ください。●予約受付は先着順、定員になり次第締め切ります。

なお、ルオーギャラリーにて、当館所蔵のルオーコレクションの中から作品を展示しております。併せてご覧ください。

次回予告 ギュスターヴ・モロー展

2019年4月6日(土)～6月23日(日)

交通のご案内：JR「新橋」駅より徒歩約8分、東京メトロ銀座線・都営浅草線・ゆりかもめ「新橋」駅より徒歩約6分、都営大江戸線「汐留」駅より徒歩約5分



[上から時計回りに]

ふじようちえん 2007年 建築家：手塚貴晴・手塚由比(手塚建築研究所) ディレクション：佐藤可士和 Photo©Katsuhisa Kida / FOTOTECA | 村山知義『子供之友』1924年3月号表紙(部分、婦人之友社) 婦人之友社蔵(展示期間：1月12日～2月12日) | イサム・ノグチ モエレ沼公園遊具広場 1982-1995年 写真提供：モエレ沼公園 撮影：並木博夫 | 旧開智学校(重要文化財) 立石清重 1876年 写真提供：旧開智学校 | 中谷芙二子《霧の森》1992年 国営昭和記念公園こどもの森内(設計：高野ランドスケーププランニング) 撮影：小川重雄 1992年撮影 黒石ほるぶ子ども館 室内詳細図1：20(部分)、1977年 菊竹清訓 株式会社情報建築

★会期中、一部展示替えします。前期1月12日～2月12日、後期2月14日～3月24日。そのため村山知義『子供之友』表紙原画は1月12日から2月12日までの展示となります。

学芸員によるギャラリートーク

1月20日(日)、2月8日(金) 各午後2時～
展覧会場内 | 予約不要 | 参加無料(本展の観覧券が必要です)。
混雑状況によってはスライドトークに変更となります。

展覧会公式ブック

『子どものための建築と空間』

発行：鹿島出版会 会期中当館ミュージアムショップで販売するほか、全国の書店とインターネットでも1月発売予定

Shiodome Museum | ROUAULT GALLERY パナソニック 汐留ミュージアム

〒105-8301 東京都港区東新橋1-5-1

パナソニック東京汐留ビル4階

お問い合わせ：ハローダイヤル 03-5777-8600

公式HP：<http://panasonic.co.jp/es/museum/>